（様式1）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 020	**提案機関名**	自然環境保全センター

要望問題名　シカ影響と森林生態系の動向に関する総合解析研究

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

丹沢大山地域では、平成 19 年度以降、シカ管理捕獲を強化していますが、未だシカ過密状態の解消には至らず、依然として自然植生の退行など森林生態系への強い影響が継続しています。

このため、対策を総合的・効果的に進めていく上で、シカ影響による自然植生・生態系の変化を把握し、事業効果の検証と対策の見直しにつなげていくことが求められています。

そこで、自然再生委員会や関係機関等との連携による、ブナ林再生研究、水源林再生研究における関連成果や事業モニタリングデータ等をもとにした総合的な解析や、それに基づく予防的対策の検討など、シカによる影響に視点を置いた森林生態系の動向に関する研究を要望します。

解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究連携課

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

ニホンジカの効果的な管理技術の開発、ブナ帯森林再生のための実証的研究

対応の内容等

シカによる植生影響については、シカ保護管理事業での植生定点調査と累積利用圧調査、ブナ林再生研究での調査、水源林整備事業での調査を当課で行っています。これらの調査から、シカの捕獲地では植被率の改善傾向が認められるものの植物体は成長していないこと、未捕獲地では植生が衰退ないし衰退しつつあることがわかりました。これらの結果をうけて次期丹沢大山自然再生計画では、ワイルドライフレンジャー制度の導入や森林整備と連携したシカ捕獲事業により捕獲が強化されることになっています。

そこで、引き続きモニタリングを行うとともに、ワイルドライフレンジャーとの連携や研究体制の充実を図るなかで生態系動向調査の実施を検討していきます。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
備　考	